

## 自院の取り組みと新事業対策

# “病気だけではなく人を診る” かかりつけ医が予防医療を担う

医療法人社団裕和会長尾クリニック 理事長・院長 長尾 和宏 氏

## メタボ・禁煙対策の二本立てで がん予防としても有効

医療法人社団裕和会は、1995年に長尾クリニックとして尼崎市内に開業して以来、「患者主体の医療」「病だけではなく人を診る」とともに「予防医学」を理念に掲げる。地域に密着した質の高い医療を提供したいと、医師10人を含む約60人のスタッフによるチーム医療で、生活習慣病とがんを中心に、予防医療から検査・検査・外来診療、在宅医療まで年中無休で対応。現在、1日約200~250人の外来患者と、約100人の在宅患者を受け持つ。

内視鏡などによる診断、各科外来のほかに開設する専門外来や在宅医療などの診療に加えて、予防医療にも力を注いできた理事長の長尾和宏氏は、新事業に関して、「本来、かかりつけ医が担うものであり、医療の本道。そこに報酬がついたのは喜ばしい。自己のことに捉われず、積極的に取り組みたいと思います」と、その考えは明快だ。尼崎健康大学と銘打った健康教室は、ほぼ毎月開催され、患者以外の地域住民にも開かれている。ほかにも成功や操作法を取り入れた運動指導、管理栄養士による栄養指導、徹底した禁煙指導など、長年、患者や地域住民の生活習慣病予防を支えてきた同院では、新事業にもその延長線上で対応できるものとして捉える。

さらに、保健指導対象者の選定に喫煙歴がリスクファクターとして盛り込まれたことの意義は極めて大きい、と長尾氏は評価する。「アスベスト問題を抱える尼崎市ですが、喫煙はアスベストよりも肺がんになる確率が高

いのです。メタボリックシンドローム対策と禁煙対策の二本立ては、脳卒中や心筋梗塞だけでなく、がん予防にも有効です」と言い、禁煙指導を強調した保健指導を行なう計画だ。

また4月には、同院と隣接する場所に予防医療センターをオープンする。健診、生活習慣病・がん対策としてのアンチエイジング外来、人間ドックなど、保険診療以外の予防医療をここで行なう予定だ。

## 市と市医師会が共同運営する 健康増進施設を中心に推進

尼崎市と尼崎市医師会の新事業についての契約は、「価格面などの調整の中で現段階では詳細は未定」というが、同市における新事業の中心的役割は、健康増進施設「市民健康開発センター・ハーティ21」が担う公算が高い。同施設は03年に同市と同市医師会が共同設立した財団法人尼崎健康・医療事業財団が運営しており、休日・夜間診療事業、介護保険関連事業や看護師養成事業のほか、各種検診・検査事業、健康増進事業、保健医療情報に関する事業を行なっている。元来、新事業で行なうこととなった、住民の健康を守る保健事業が開設の目的である。

一方、長尾氏が会長を務める尼崎市内科医会では、新事業を支援するスタンスを示している。この事業が効果的に実施されるためには、関係者の顔の見える連携が欠かせないと、内科医会では、保険者・医師会・開業医などが意見交換できる場として、「特定健診・保健指導懇話会」を主催する。昨年6月の第1回に続き、今年2月にも開催予



クリニックの2階に設けたスペースで操作法教室を開いている

定だ。「この事業は、制度・学術両面からの検討を継続していくことが必要。今後も定期的に開催していきたい」と抱負を語る。

長尾氏は、新事業による健診未受診者や生活習慣病の掘り起こしで「患者が増える可能性がある分野」と、経営への影響を示唆する。また、医療費削減のための姑息的な政策とみる向きもあることには、「予防医療は、健康を願う国民から要請されていること。病気だけではなく人を診るプライマリケア医がかかりつけ医として予防から疾病まで、そのニーズに応えられるのです」と話す。



医療法人社団裕和会長尾クリニック 理事長・院長  
**長尾 和宏** (ながお かずひろ) 氏

1984年、東京医科大学卒業。同年、大阪大学第二内科入局。市立芦屋病院を経て、95年、尼崎市に長尾クリニックを開業。2004年より尼崎市医師会会長。尼崎市特定健診・保健指導懇話会代表世話を務め、尼崎メタボリックシンドローム懇話会世話を務め、人間ドック/スタッフ: 医師10人(常勤5人、非常勤5人)、看護師15人、管理栄養士5人、放射線技師1人、臨床検査技師1人、理学療法士5人、鍼灸師1人、柔道整復師2人、心理カウンセラー1人、社会福祉士1人、ほか